



Vol.40

わが背子せこが古家ふるへの里の明日香あすかには 千鳥鳴くなり島待ちかねて

長屋王 卷三 二六八番歌

【訳】あなたのもと住んでおられた家のある里の明日香では
千鳥が鳴いているようです。山齋さんさいのできるのを待ちかねて。

千鳥の鳴く「島」

千鳥の名前は「チ、チ」という鳴き声に由来するとも言われます。千鳥の鳴くようすは『万葉集』にも多く

詠まれ、「淡海あづみの海うみ夕波ゆふなみ千鳥汝ちどりなけば情こころもしのに古思いにしへほゆ」(淡海の海の夕波を飛ぶ千鳥よ、お前が鳴くと心もしなえるように昔のことが思われる。卷三・二六六番歌)とあるように、その鳴き声は万葉人の心に訴えかける情緒的なものだったようです。

さて、本歌は長屋王が「わが背子」と呼ぶ親しい男性の故郷である明日香で、千鳥が「島」を待ちわびて鳴いているようすを詠んだ歌です。明日香から藤原京へ遷都した後のものでこの「島」はもとは「嬬つま」と書かれて

おり、書写の際に誤つて「島」とされたとする説もあります。その場合、長屋王の友人の妻が夫の帰りを待ちわびているようすを歌つたものと

いうことになるでしょうか。一方、「島」だとすると、それは山齋さんさいすなわち庭園のことだとされます。

その場合「背子」が住んでいた明日香の庭園が、遷都によつて荒廃してい

くことの物悲しさを千鳥に託した歌ということになります。

(本文 万葉文化館 吉原 啓)

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区内にある体感型施設で、キトラ古墳や古墳壁画を分かりやすく楽しく学ぶことができます。キトラ古墳の壁画が保存管理されている1階では、期間限定で実物の壁画を見ることができます(壁画公開は要申込)。

このほか、別館の体験学習室では、「勾玉

づくり」「海獣葡萄まがたまづくり」「海かいじゅう獣ぶどうづくり」など飛鳥の歴史を体験できるさまざまなプログラムを実施しています。



問 キトラ古墳壁画体験館

四神の館

☎ 0744-54-5105

所 明日香村阿部山67

時 9時30分~17時

(12~2月は16時30分まで)

キトラ古墳壁画体験館
四神の館(明日香村)

